

	<p>第 138号</p> <p>1999年 1月1日 発行</p> <p>編集部 増田 則雄</p> <p>事務局 京都府八幡市八幡城之内 20 TEL/FAX 075-981-0063, 982-8064 nomasuda@mbx.kyoto-net.or.jp KYONICOM@mbx.kyoto-net.or.jp</p>
---	--

'1999 謹賀新年

事務局 増田則雄

皆さんあけましておめでとうございます。ウサギは跳べる。私達は、うさぎ跳びがうまく出来でしょうか？

30年前には、未来の世紀と言われた「西暦2000年」を迎える前年となりました。

昨年末に始動した宇宙ステーション計画は、ようやく世界、いや、地球は一つと人類が大きな視点で宇宙観をとらえ始め争いの時代から、未来を見つめる時代への第一歩を歩み始めているかと思えば、またもや年末に無謀な戦火が降り注ぎました。力で押さえる時代は過去のものになりつつあったのが、又もや大国主義のエゴイズムが頭を持ち上げてきたのです。日本政府は、それに対し独立国家としての意見も述べず、無能な同調を表明するという情けない国なのです。

歴史を振り返ると一目で解るのですが、戦いでは何も得られない、その後には心に残る憎しみと、人の脳裏に残る不快感だけなのです。「人は、他人の脳裏に焼き付いた憎悪を取り除く事は出来ないのです。」それを出来るのは唯一、本人自身なのです。その国の人々は、一生涯この事を背負って生き続けるでしょう。そこから始まる新しい火種を生む事も忘れてはならない重大な問題ではないでしょうか。

昨年にはもっと早く、未来を見つめる時代が訪れる気がしたのですが、大国のエゴイズムが未来をさえぎり早々と年月が過ぎ去り今日に至ってしまいました。

ただ、パーソナルコンピュータの世界では昨年始めはCPUのクロックが200MHzであったのが、年末にはその倍以上の450MHz、今年には1000MHzとも言われ正に倍々で進歩しています。

CPUクロックの速さこそがコンピュータを100度変化させて行くと考えられ、入力装置のキーボードとマウスのポインティングデバイスという装置はなくなるかも知れません。

入力は、全て音声入力でOK。人間の体に装着して視聴覚認識装置でスキャナーやビデオももちろんカメラも要らない。そして、日常耳に入る音声すなわち聴覚は全てデータとして登録され、私達が道を歩いていて電柱に当たりそうになれば、広い空間がある方に避ける。この行為もインプットされます。もしも、よそ見をてて電柱に激突しそうになった時スピーカで警告してくれます。但し、警告に対してその人が対応出来なければただ単に電柱に激突するだけですがね。つまり、忠告や警告はしてくれますが体までは動かしてくれません。体までコントロールする、そんなことをすればロボットになってしまいます。

見たこと、聞いたこと、そのことに対してその人はどう対処したか、これがその人の個性なのです。その個性をパソコンがデータベース化するそうすると、それぞれが愛用しているパソコンには個性があり一つの質問に対して個性のある答えを返してくれる楽しい世界が生まれるのではと思います。

反面、持ち主の個性を受け継ぐとそのパソコンのデータが消えるまでその個性を持ち続けそれを子どもが受け継ぐこれを何世代もが受け継げば恐ろしいものになるかも知れません。

小さな子どもがそのパソコンを身にまといばたちまちバーチャルな大人の世界に入る事も。しかし、そのパソコンの持ち主が老人性痴呆症や女性などの持ち物であればまたちがった答えが返ってくるのでは、そこで人とパソコンの個性の凌ぎ合いが起こったり、優秀な人が利用していたパソコンを持ってばたちまちにしてハイレベルな応答が出来るという未来社会でのパソコンと言えばこれでしょうか?????

とにかく、21世紀はバーチャルリアリティーの世界に踏み込んで行くのではないのでしょうか。私達もそのような近未来に向けての研究と講習会を重ねて応用し実践へ利用したいですね。

資本主義経済崩壊の特効薬はデノミ、無駄な公的資金をばらまかなくても勝手に景気が回復する？昔は戦争でした。日本は自己破産寸前の状態。資本主義経済の復活は、ゼロからの出発なのです。

皆様、本年もより良い年でありますようにパソコンの研究と実践に励んで下さい。

トピックス and ニュース

メンテナンスウィザード導入 岩井宏安
 K6-2/300M、64MBのRAM、6.4GBのHDDに、Windows98・オフィス97・VB5のインストールされたものに、Windows98のTOOL導入実動テストをしました。今まで100秒程度で起動していたWindows98が何秒縮まるか楽しみに。

メンテナンスウィザードの起動。11:40メンテナンスを実行しています。

- ①ハードディスクから不要なファイルを削除。(数十秒)
- ②ハードディスクのエラーをチェック。(数十秒)
- ③頻繁に使用するプログラムをスピードアップ。(2時間弱)

15分でCRTは省電力モードになる 11:55。
 HDDは書き換えの音がやかましい。そしてファンの風を切る音も気になる。

マウスクリックで再度CRTを働かせる。11:57歩みののろい最適化中の画面は、スカイブルーからブルーに書き換えられるが、書き替の最中に、マウスのクリックや画面のスクロールをすると書き換えは中断される。

待つのが耐えられないのでそのままにして寝ることにする。12:15寢床でしばらくHDDを頭の角に意識してテレビを見る、気が付けば2:00にHDDはオトナシクなっていた。

PCの起動時間は75秒程度で、速くなったがやはり待たされることには変わり無い。

WORD97の立ち上げは4秒で目を見張るものがある。次にExcel97、これも4秒で入力待ちの状態になる。そしてAccess97も4秒、同じであった。またVB5の起動には1秒で、このスピードには敬服する。次に、Wordだけしか実験してないが文書の読み込みは、1秒強で画面表示を行いました。

結論として、メンテナンスウィザードの導入は、Windows98(OS)の起動においては、メリットと言えるほど速くはありませんが、アプリケーションの立ち上げと、ファイルの読み込みにおいて、時間の節約という計り知れないメリットがあると言えます。それは、待ったが無く、即仕事が始められます。結構毛だらけ猫のけつ糞だらけ。(失礼)

京都マイコン研究会の皆さん是非Windows98導入の際にはメンテナンスウィザードを導入して下さい。

新年早々部会開催致します。

日時 1999年1月5日(火) PM.7:00より
 場所 事務局(八幡市:TEL075-981-0063)
 内容 新年会
 新年度部会計画 VB・VBA部会
 インターネット部会

昨年末は12月29も開催しました。1年間休みがほとんどありません。その前の年も同じような状況でしたが、彼女たちは一体(勉強熱心)?

例会報告

1998年12月5日(pm.6:30)

場所 大山崎ふるさとセンター

参加者氏名 若林、中辻、若井、中村、加藤
 増田、岩井、小寺、前田征、上田
 10名
 内容 18:00 ハード部会(DOSとWINDOWSとのP
 and Pの実演講習)* 中辻、若井
 19:00 パーソナルコンピュータ利用技術者
 認定試験監督について
 21:30

次回例会

日時 99年1月9日(土)(pm.6:00)

場所 大山崎ふるさとセンター

例会内容 18:00 新年挨拶と交流
 19:00 当会新年度総合計画
 1. 全会員のパソコン利用技術の向上
 2. 各部会の年度内達成目標計画
 3. 新世紀を迎えるための会員拡大計画
 20:00 各部会発足
 1. 部会登録
 2. 部長選出
 3. 各部会の年度内達成目標計画

パーソナルコンピュータ利用技術者認定試験 監督官としてご協力ありがとうございました。

1998年12月6日(日)

参加者名: 加藤・中辻・小寺・前田征・前田祐・中村
 若井・若林・岩井・増田

高齢化社会へ向けた若い女性との 交流クリスマスパーティー

場所 事務局(増田 宅)
 日時 1998年12月22日(火) PM.7:00
 参加者 若井・河原・中村・若林・中辻・増田・
 今井・今西・藤本・柴田・田中

私達中高年層が日常相手にされない若い女性達の企画で、高齢化社会へと足を踏み始めている私達に忘年会を兼ねたクリスマスパーティーの席を設けて頂きました。

私達は、ただ周りに若者が居るだけでいい、出来ればお話しもしたい。ついでに一体となり物事を考えて分かち合えばなおさら良い。派手な事はしませんでした。が何となしに若者の雰囲気が肌に感じられた事と存じます。

若さとは心である。ご参加ありがとうございました。

例会風景



京都マイコン研究会組織体系と綱領について

昨年末、部会活動によせてという下記のようなメールを戴きました。

事務局 増田

京都マイコン研究会各位へ

部会活動によせて

OS部会・言語部会・アプリケーション部会・ハード部会・インターネット部会の5部門に大別できると思います。全体を把握した上で個々の部会の中を細分化するのでなければ目的がぼやけてしまい、目標を失いかねませんので、〇〇部△△会としては如何でしょう。

そんな形式的なことはどうでもいいやんか！！そのとうりです。でもいちもく置かれる京都マイコン研究会に育てるためには組織作りからです。

★インターネット部門

- メールは個人的な情報の送受信、HPはグローバルな情報の送受信ということになるでしょう。

○したがって全ての部会に関連したもので外すことは無意味だと思いますが、受信はされるが発信はされないのがノーマルな使用方法だと思われます。

★OS部門

Windowsをはじめ、Linux・BeOS・TRON・OS9など多くのものが発展途上にあります。

- WindowsはMSによって開発され、ハードメーカーやCPUメーカーを巻き込み超巨大企業となりました。オフィスのPCにはWindowsが投入され、すっかりメジャーの認識を植付けました。

○PCそのものを趣味としている私達にとっては興味の対象外になりつつあります。

- LinuxはUNIXのクローンとして無料でソースが公開され、ボランティア団体により機能強化と導入を促進していますが、まだ発展途上といえます。しかしLinux以外にも数々のクローンがあり選択に苦慮するところです。インテルの後押しのためインテル以外のCPUでの実績があまりありません。

○無料ソフト・フリーソフトのTOOL・ユーティリティ・アプリケーションは非常に沢山あるそうです。

- BeOSは有料のOSで企業の保証がありますが、まだ開発途上でこれからに期待が持てます。多くのCPUで動作するようですが、まだ実績報告が乏しく心配です。

○目標は、UNIX上で動くアプリをフォローすることですが相当の時間がかかりそうです。

- TRONは日本の企業から発売されています。

○しかし研究開発はボランティアにより行われているためか対応が鈍く、積極性に寂しさを感じます。私たちのフィーリングに合っているのではないかと思います？

★アプリケーション部門

- Windowsのアプリが圧倒的に私達の目に付くので避けては通れませんがOSと一体化したと認識しても差し支えない状態です。メジャーになりオフィスでの利用が常識となり新鮮味に欠けてきました。ワープロ・表計算・データベースなどを使いこなすことは必要ですがその時々に応じて、辞書を開く感覚で対応したら事足り

のではと思われます。

○ 各個人が必要とするアプリは種々雑多ですので、必要に応じ個人で切り開く以外、全体を包み込む方法は見つからないのではないかと思います。

○ 京都マイコン研究会の意思伝達に共通アプリを決める必要はあるとおもいます。

★言語部門

● VB・C++・C・Javaなど多くの言語が存在しますが、VB以外はどのOSでも共通に使用できると思いますが、マスターするには非常に多くの時間を要するものと思います。

○ どの言語だけでいいと言うものではありませんので平行して取り組めばいいのではないのでしょうか。

★ハード部門

● マザーボード・CPU・メモリ・HDD・CD-ROM/R/RW/MO・FDD・マルチメディア・ビデオカード・SCSIカード・ネットワーク・モデム/TA/ルータなど、それぞれのスペックと組み合わせるかが、どの組み合わせが自分が望んでいるPCに近づくかを考えることです。

○ また日進月歩、新しいものが出現しますので、より使いやすい高性能のPCをイメージするかどうかでしょう。

最初に書きましたがインターネットは全ての★のインフラとして成り立ち、これを外すことは、無謀だと思いますのでHPの利用や作成に力をそそぎ込む情熱が必要だと考えます。

岩井宏安

増田より

岩井氏 発 部会活動によせてについて

岩井さん良いところに気が付かれましたね。

岩井さんが提示された部会構成。実は、確立されているのです。

皆さん気が付かれた方もおられると思いますが、パソコン認定試験にこのジャンル分別されているのです。

2年前位から、出題傾向が変更され昨年からは岩井さんご指摘のようなジャンル分別されてきました。

現在利用されている分野を網羅していると思われます。

このような綱領を確立することの重要性は私も感じておりましたが、いかんせん、皆さんの同調と勤勉性、努力、若さ、好奇心、組織作りなどなど色々な問題をいかに克服するかは、会員の倍增計画しかないと思われ私自身は努力しているのですが、一人の力では所詮泡となり消え去るのではとも思います。

1997年12月25日に(社)パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会(NASKA/PCUA)のホームページが開設、時同じくして私たち京都マイコン研究会のホームページも開設致しました。ちょうど1年前の会報(第16号)に認定試験の出題傾向を掲載させて頂きました。4級の問題傾向を見ていた戴ければお解りだと思いますが、正に岩井さんのご指摘の通りの出題に分別されています。3級の問題に於いても同じですが、2級がその集大成の出題になっています。

注 : NASKA のホームページとPCUAのホームページは同じベースには存在していません。

(社) パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会

京都支部
京都マイコン研究会

会長
 副会長
 会計
 事務局長 事務連絡/パソコン認定試験/合宿
 編集部 会報発行

部 会

言語

Visual Basic
 Visual C++
 Java
 その他

OS

Windows
 Unix
 その他

ソフト

ワープロ
 表計算
 データベース
 グラフィック
 その他

ハード

CPU/ボード/メモリー
 周辺機器

ネットワーク

インターネット
 ホームページ作成

部会長名

部会参加会員名



社団法人パーソナルコンピュータ
ユーザ利用技術協会

What's New!

- ・第16回パソコン利用技術研究発表会について(Dec.1998)
- ・第31回パソコン認定試験「合格発表」について(Dec.1998)
- ・今月のパソコンリテラシ'98 Nov.1998
- ・バックナンバー

Menu

Information

社団法人パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会の御案内です。

パソコン認定試験

パーソナルコンピュータ利用技術認定試験の概要紹介です。

パソコンリテラシ

協会誌「パソコンリテラシ」の目次などの紹介です。

パソコン通信

当協会で運営しているパソコン通信局の紹介です。

初心者相談所

パソコン初心者からの相談を受け付けています。

NASKA

インターネット上で行うパソコンネットワーク試験の会場です。

**関連団体への
LINK**

関連団体のリンク集です。



社団法人
パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会のご案内
Personal Computer Users' Application Technology Association

■概要

名称:

社団法人パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会
Personal Computer Users' Application Technology Association
会長 大野 豊(京都大学名誉教授・立命館大学客員教授)

目的:

本会は、パーソナルコンピュータユーザの利用技術に関する調査及び研究、普及啓発、情報の収集及び提供等を行うことにより、情報リテラシ(コンピュータを扱う基本的能力)の涵養を図り、我が国情報化社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

成立許可:

平成3年5月9日

主務官庁:

通商産業省 所管部局 機械情報産業局情報処理振興課

役員:



委員組織:



会員構成:

個人正会員 2,409名 / 法人正会員 94社 (1997.12現在)

所在地:

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-22

TEL(03)3438-1869 FAX(03)5472-5338



(社) パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会 ホームページ



社団法人
パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会のご案内
Personal Computer Users' Application Technology Association

■概要

名称:

社団法人パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会
Personal Computer Users' Application Technology Association
会長 大野 豊(京都大学名誉教授・立命館大学客員教授)

目的:

本会は、パーソナルコンピュータユーザの利用技術に関する調査及び研究、普及啓発、情報の収集及び提供等を行うことにより、情報リテラシ(コンピュータを扱う基本的能力)の涵養を図り、我が国情報化社会の健全な発展に寄与することを目的とする。

成立許可:

平成3年5月9日

主務官庁:

通商産業省 所管部局 機械情報産業局情報処理振興課

役員:



委員組織:



会員構成:

個人正会員 2,409名 / 法人正会員 94社 (1997.12現在)

所在地:

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-22

TEL(03)3438-1869 FAX(03)5472-5338



社団法人パーソナルコンピュータユーザ利用技術協会は、パソコンユーザの利用技術の向上とコミュニケーションの場を提供し、社会、家庭の情報化の進展と情報リテラシの涵養を図ることを目的に、通商産業省の認可により設立された、全国組織です。

当協会は、パソコンの利用技術に関する研究を会員の御協力を得て行って参りました。これらの実績をもとに、日本学術会議へ「学術研究団体」としての登録を予定しております。これにより、会員各位が研究されたパソコンの利用技術が評価され、社会的に広く認められることとなります。

パソコン応用技術のめざましい進展の中で、実務利用への基盤を築き、ハイレベルな仕事をこなすためには、あなた自身が協会の正会員として御入会され、協会運営に参加されるとともに、正しく高度な技術を身につけられることを期待しております。

■協会誌「パソコンリテラシ」

協会誌「パソコンリテラシ」(月刊 800円)は、パソコンの基礎から応用まで幅広い情報と詳細な解説によって、会員のレベル向上に役立つ技術教育誌です。

パソコン利用者が研究・開発した論文、技術ノート、パソコンを自分の仕事に役立てるために必要な技術解説、内外の最新情報、パソコン初心者を対象としたやさしく学ぶことができる「初級講座」や会員間の情報等が掲載されています。

■パソコン利用技術論文誌

日本学術会議の学術研究団体の指定を受けているPCUAでは、会員から随時論文を受け付けています。採択された論文は、論文誌(定価 5,000円)に掲載発表されます。

■パソコン初心者相談所

パソコンの利用に関する相談、質問をインターネット等で受付を行い、PCUA会員の相談員による回答を基に、相談所からお答えします。
また、相談内容等が掲載されている相談報告書(定価2,000円)が、正会員には無料で配布されます。

<相談所ホームページ><http://www.pcua.or.jp/RESQ/>

■パソコン利用技術研究発表会・研究会・学生部会

会員が研究した論文又は作品を発表することができる研究発表会、研究会及び学生部会及び楽しい会員のパーティに参加することができます。

■特約コンピュータ保険

パソコン及び周辺機器を含めた情報機器(ハード、ソフト)の使用上における事故による障害が非常に安い保険料で保障されます。

例えば、600円の掛け金で10万円保障(御希望により増額可能)。

■入会手続と会費納入

▼会費

	入会金	年会費
正会員	3,000円(初年度のみ、学生免除)	6,000円
準会員(学生に限る)	0円	2,000円

※論文誌を購読ご希望の方は、年会費に2,000円を加え納めてください。

▼会員サービス一覧

	協会誌	論文誌	相談所報告書	研究報告書	BBS	研究会・学生部会
正会員	●	※	●	●	●	●
準会員	●	※	-	-	●	●

■問合せ先(資料請求先)

パーソナルコンピュータ利用技術認定試験

合格発表

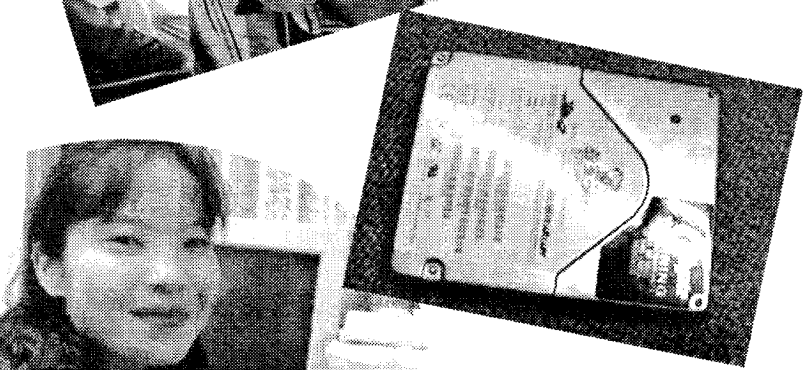
パーソナルコンピュータの高機能化並びにインターネットなどを軸とした多様なメディアの利用と知識処理を含む高度な情報処理が一般化し、パーソナルコンピュータが日常生活をはじめ、あらゆる領域に浸透いたしております。これに伴い、企業等産業分野での活用はもとより、教育並びに家庭への普及は目覚ましく、パーソナルコンピュータ等情報機器を有効に利用し、実行し得る環境が一層整ってまいりました。このような現状を洞察して、当協会が1983年(昭和58年)から創設実施してきた「パーソナルコンピュータ利用技術認定試験」制度は、着実に成果をあげ、受験者数は通算454,164名に達し、この内246,707名の合格者を見ております。

このパソコン認定試験は、学校の授業科目の習得単位、法務省、企業内職員の研修用などに広く採用され、企業の新規採用時の選考要件、昇給・褒賞金の支給等に適用されるなど産学あげて、その有用性が一層認識されております。

新たに当試験合格者は、文部省が実施する1998年度(平成10年度)からの大学入学資格検定の受検科目(情報関係基礎)が免除されるなど高い評価を受けるに至っております。また、最近のパーソナルコンピュータの幅広い分野の利活用状況から、実務に対応したきめこまかな試験内容を採択しており、3級水準には、表計算言語、データベース言語又ははん用プログラム言語(Pascal, C++/C)のいずれかを選択することも可能にしております。更に3級水準以上に部分合格制度を採用し、2年間の猶予期間を設けて同水準の部分再受験の機会が付与されるなど、より受験しやすいものにしております。

事務局部会日誌

- 前田氏VB本格マニュアル購入。
- 前田征治氏BSから株式データを収集。
- 中村氏VBの特訓。
- 中村氏VB10日で解るマニュアル購入。
- 若井氏10日解る「出来るVB」マニュアル購入。
- 若井氏10日でマニュアル制覇する。
- 中村氏前田氏ダウンロードの株式データを解析するプログラム作成に着手。
- HD増設する。
- WINDOWS95をWINDOWS98にアップグレードする。
- WINDOWS98にPULS!を追加。
- HDDをドライブスペースで倍化する。
- WIN95とWIN98の導入ミスで2GHDDを壊す。
- WIN98でインターネット利用中にウイルスが進入マスターとスレーブのHDD2台壊れる。
- WIN98のファット32フォーマットHDDをWINDOWS95で利用しようとした為のトラブル。
- ホームページに動画を貼り付ける為のアプリケーション操作。
- ExcelでVBAを活用する。
- ExcelでVBAで作成したプログラムをVisual Basic.v5に移行する。
- VBのツールについての解説。
- VBのツールの追加と利用の仕方。
- VBのコード記述。
- VBの関数。
- VBの変数と代数の使い方。
- VBのイベントの利用の仕方。
- VBのオブジェクトについて。
- VBのフォーム上に配置したツールのコントロール法。
- データベースの概念の講習。
- データベースJetエンジンの機能。
- Accessの利用してデータベースを作成する。
- Accessのデータベースのクエリーを利用した関連付け作業。
- データベースのファイル分別する事によるファイルサイズとスピード化を図る作成法。
- データベースを検索するコード記述の講習。
- VBでデータベースをコントロールするコード記述講習。
- VBでOLEコンポーネントの組み込み。
- OLE機能を利用してExcelで作成したシートをVBのフォームに表示する方法。
- VBのMDIフォームの利用の仕方。
- VBのタブデータダイアログの利用の仕方。
- VBのタブデータダイアログのページの利用の仕方。
- VBのインデックスの使い方。
- VBので利用するアルゴリズム。



第16回パソコン利用技術研究発表会

**研究論文募集!**

この研究発表会は、パーソナルコンピュータ・マルチメディアの利用技術向上を図ることを目的に、パソコンの利用者が研究・開発した成果を発表する場です。

発表内容は、利用者の立場で教育、開発、製作、応用、体験など、特に制限はありません。

1. 日時

1999年3月6日(土)
10:00~17:00(参加費無料)

2. 参加資格

個人又はグループ。 会員、非会員は問いません。

3. 会場

機械振興会館ホール(東京都港区芝公園3-5-8)東京タワー前

3. 会場

機械振興会館ホール(東京都港区芝公園3-5-8)東京タワー前

4. コーディネータ

佐藤 カ(PCUA副会長・慶應義塾大学名誉教授)

5. 発表方法

- 1) 口頭発表(実演を含む)
- 2) 展示発表
- 3) 論文発表(論文の提出のみ)

6. 発表申込方法

- 1) 電子メール、ファクシミリ又は郵便で次の各項目を明記のうえ、研究発表会係までお申込みください。

- i. 題目
- ii. 代表者氏名
- iii. 勤務先又は学校名及び住所
- iv. 連絡先住所
- v. 連絡先電話番号・ファクシミリ番号・電子メールアドレス
- vi. 発表方法

- 2) 発表申込期限 1999年2月5日(金)

- 2) 発表申込期限 1999年2月5日(金)

7. 発表資料等

- 1) 用紙 A4判
- 2) 枚数 片面4枚以内
- 3) 提出期限 1999年2月19日(金)必着

8. 講演論文集

当日、発表された資料をまとめた講演論文集を発行し、発表者及び参加者に配布します。

9. 発表者の公表

当研究発表会の発表者名及び題目は協会誌「パソコンリテラシ」に掲載されます。

10. 参考(論文採択)

発表終了後、内容を整理して頂き、査読を経たのち、採択されたものは、同協会誌又は論文誌に掲載されます。

募集案内ポスター(A3判)を無料でお送りします。
御希望の方は、送付先住所・氏名及び必要枚数を電子メールで御連絡ください。

新春合宿

開催月日 **1999**年 **1**月 **23**(土) ~ **24**日(日)

開催場所：滋賀県志賀町蓬莱 (株) 関西テレビ放送 **「蓬莱山の家」**

TEL (07759)2-0298

集合場所：京都駅 南側 京阪ホテル 1F 喫茶ピアモンテ・ロビー
緊急連絡先： 010-139-5261

集合時間：AM 10:00

合宿費用：10000円 (当日集金)

参加資格者：京都マイコン研究会会員

20日 予定

11:00 出発

12:00 昼食

13:00 会場準備

14:00 研修会①「1997年度 総会 (財政報告、事業報告)」各部部长 部会報告

15:00 研修会② WINDOWS 98 搭載マシン利用 実習

こんな話、こんな動作、こんな機能など、ハード、OS、APPの情報交換会

18:30 休憩 (入浴)

19:00 夕食

20:30 研修会⑤「Visual BASIC v5 for Excel VBA」講習会

京都マイコン研究会。組織管理プログラム作成

(講師 増田 or 中村)

21日 予定

8:00 朝食

9:00 研修会⑦ 隠されたPC98とっておき言いたい放題

10:00 研修会⑧「1998年度 事業計画案発表」

11:00 後かたづけ

12:00 現地解散

会員各位様へのお願い

私達、京都マイコン研究会では年間2回は合宿を開催しています。この合宿では、個人々のマシンを持参して頂き日常のトラブルや不可解な事。また、ソフトを操作するに於いて解らない事など、日常のパフォーマンスにおけるシーンでこんな事もあった、あんなことあったを合宿にお持ち頂ければ、全てが一挙に解決出来る又と無いチャンスなのです。その時々々のシーンに対応できる技術を習得できます。

さらに、高度な利用技術などの全てを公開する講習会も開催されますので、レベルアップのこれまた重ねてのチャンスなのです。

日ごる例会に出席が出来ない方々などとのコミュニケーションが出来るこれまた、トリプルチャンスなのです。

事務局 増田

このような、チャンスが3つもある有意義な場を設けていますので、是非とも皆様全員のご参加を事務局では願っています。

京都マイコン研究会は、初心者にはやさしく上級者には厳しい会なのです。